

2025

しがの生協

祝
No.200

TOPICS
トピックス

2025年新年賀詞交歓会

2025年1月9日(木)
琵琶湖ホテル 2階「ローズ」

滋賀県生協連
「2025年ビジョン」

まなびあい・
つながりあい・つたえあい、
びわ湖を大切に、
誰もが平和で安心して
くらす社会の実現を
めざします。

2025年 新年賀詞交歓会 開会挨拶



滋賀県生活協同組合連合会
代表理事 会長 白石 一夫

新年明けましておめでとうございます。
昨年を振り返ると、戦争や紛争は止む
ことなく、貧困・飢餓は依然として拡大し、
日本では能登半島地震の傷も未だ癒え
ず、物価高は年中続きくらしの厳しさも
増した一年でした。

一方で、生協への期待も感じています。
生協には、消費者や生産者と直接つな
がっているから得られる情報を伝えあ
える、くらしのサポートがあります。高齢化、
人口の減少、地域の「つながり」の希薄化
の中、「くらしの困りごと」を事業や活動
のカタチにして活かすチカラもあります。

滋賀に生協が誕生して50数年。その基
礎には、「自助・自己責任・民主主義・平等・
公正・連帯」という「協同組合の価値」が
あります。日本の協同組合の組合員数6,500
万人。事業高16兆円。世界規模では組合
員10億、事業高292兆円。今年は「国際協
同組合年」です。ぜひ、私たちの事業や活
動に関心を寄せてください。また「持続可
能な発展のために役割を果たす」ことが、
わたしたちの信条でもあります。



2025年新年賀詞交歓会

「2025年新年賀詞交歓会」が、1月9日(木)、大津市の琵琶湖ホテルで開催され、60名のみなさまにご臨席いただきました。

今年は、昭和100年、戦後80年、滋賀県の生協50年、阪神・淡路大震災30年、そして2回目の国際協同組合年の年、さまざまな視点から、過去と現在、未来を見通す交流となりました。



ご来賓ご挨拶

滋賀県知事
三日月 大造様

生協さんとは、今年も力を合わせてさまざまな連携、協定を結びながら、頑張っていきたいと思っております。

国連で「8月27日を世界湖沼の日」と定められました。昨年のうれしい出来事のひとつです。40年前、琵琶湖の異変に対し、県民が「石けん運動」を取り組み、それを「世界と共有して新たな取り組みに」と、大津市で「世界湖沼会議」を開催した。その日が1984年8月27日。滋賀県民の矜持と責任の日です。

もう一つ、滋賀県で「わたしが輝く国スポ障スポ大会」が開催されます。「スポーツをすること、みること、ささえること」を通じて、いろいろな出会いや、地域活性化に昇華させていきたいと思っております。

また、今年子どもたちの学校給食を「地産地消で届けられる仕組みをつくらう」と提起させていただきました。滋賀でつくるもので、滋賀の子どもたちを育てていく取り組みをつくらうではありませんか。



乾杯ご発声

IYC記念滋賀県協同組合協議会会長
滋賀県立大学名誉教授
小池 恒男様

本年は、昭和100年、戦後80年という歴史的な年です。戦後80年間で、アメリカは余剰農産物を日本に押しつけ、「日米繊維交渉」で世界一の繊維を奪い、「ブラザ合意」で円・ドルレートを100円台に切り上げ、「日米半導体交渉」で世界一の半導体を、台湾、韓国の後塵を拝する状況に追い込み、そして、今年の「日本製鉄のUSスチール買収禁止命令」。想像もしなかった日米関係が始まっています。

嬉しいニュースでは、被団協の「ノーベル平和賞」受賞で、世界のミドルクラスの国々と連携し、平和外交を進めていく可能性が展望できます。もう一つ、2012年に続き、国連総会が本年を「国際協同組合年とする」と宣言しました。この期待にこたえ、世界ともに怯むことなく、2025年が民主主義と豊かなくらしの新たな地平を切り拓く年になることを祈念いたしまして乾杯したいと思います。 乾杯。



ご来賓ご挨拶



衆議院議員
大岡 敏孝様

私は「労働者協同組合法」制定に携わった一人です。自分たちのビジネスの出資者になり、労働者にもなり、地域にも貢献する。この形をぜひ展開していただきますよう。私たちが全力でお支えいたします。



衆議院議員
小寺 裕雄様

今、JAさんとコープさんとの協同組合連携がすすんでいます。消費者の声をフィードバックしていただき、その声を活かした食材を適正な価格で届ける。その循環が、今後の農業の肝になると思っております。



衆議院議員
武村 展英様

消費者庁ができて16年。「機能性表示食品」「食品表示法」等の見直しも行いましたが、「紅麹」「詐欺商法」と新しい問題も出て、対応が追いついていない。消費者問題にも一緒に取り組めたらと思います。



参議院議員
嘉田 由紀子様

日本では離婚すると子どもの親権は片方に決める「単独親権」でしたが、「共同親権」となりました。その理解促進のため「共同親権と子供の幸せ」を上梓しました。子どもを貧困と虐待から護るため、ご協力ください。



滋賀県議会議長
有村 國俊様

知事と議会は車の両輪です。経済と政治も、国と県も、県と市・町も車の両輪。生協さんと組合員さんも車の両輪でしょうか。車に乗っている方は、家族、消費者、地域住民ということになるのでしょうか。



長浜市市長
浅見 宣義様

コープしがさんに、人口過疎地用移動販売車を走らせていただきました。移動車がある停留所は、住民の交流の場となり、コミュニティ復活にも役立つ、地域課題解決の大事な社会モデルとなっています。



近江八幡市市長
小西 理様

生協さんには「おむつおとどけみまもり便」をお願いし、宅配だけでなく子育て相談にも対応していただいています。食の安全はもちろん、生活を下支する安全弁として、生協の役割は貴重だと思います。



多賀町町長
久保 久良様

昨年、大滝山林組合との「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結しました。山づくり支援だけでなく、「コープの森」をつくり、10年間、琵琶湖、地域を守るため、学び合い、語り合いたいと思います。



日野町町長
堀江 和博様

3年前に生協さんと「安全で安心して暮らせるまちづくりに関する協定」を締結しました。今年が阪神大震災から30年の節目の年。いつ災害が起こるか分からない時代を、協力して乗り越えたいと思います。



竜王町副町長
榎木 栄司様

「アグリパーク竜王」の経営母体の出資者であるコープしがさんは、今年で30年のおつきあいです。農業も厳しくなっている中、消費者と結びつけていただくコープしがさんは、大変大切な組織です。



チームしが県議団
富波 義明様

生活、食の安全、少子高齢化、SDGsなど幅広く、組合員、地域のためにご尽力いただいております。活動を通じてのご要望などを、ぜひお聞かせください。その声の反映は地方議員の役目でございます。



滋賀県労働者福祉協議会
専務理事
山本 俊夫様

「学ぶ・つながる・伝える・伝わる」と、多方面にわたるその視野は、私たちの参考になる、意欲的な活動で、非情に感銘を受けております。今後とも刺激を受けながら、共に頑張っていきたいと思っております。



京都新聞滋賀本社代表
石川 一郎様

SNSやバーチャルな世界に閉じこもり、「他人の話は聞かない」という現象が起きています。今年は、「国際協同組合年」。生協さんの活動を通して、「face-to-faceで人と交わる」大切さを広げていただければと思います。



消費者ネットしが理事
元岡 恒子様

私の担当は「表示問題」。「こんな広告いいのかな」という疑問に答え、KC'sさんと共同で問い合わせ活動をしています。コープさんには運動だけでなく、資金的にお世話になりありがとうございます。



きょうされん滋賀支部
常務理事・事務局長
村上 歩様

暮らしを支えるグループホーム、働く場である作業所、ホームヘルプや相談支援等々、40年以上障がい者支援事業に携わっています。生協さんの地域の方とつながって展開する事業に感銘を受けています。



日本生活協同組合連合会
関西地連事務局長
村上 毅様

会員生協様からは、「困ったときはお互い様」の精神を感じます。滋賀生協連さんには、生協以外の協同組合、行政とのつながりも深く、今年度も地域住民のための活動を活発に行っていただくものと思っています。



閉会挨拶

滋賀県生活協同組合連合会
副会長
森井 和則

国連が持続可能な開発における協同組合の貢献を評価して、2025年を国連協同組合年と決めました。協同組合が、SDGsに貢献できる社会的事業体であると評価されているのだと思います。その期待に応えて、今後とも頑張っていきたいと思っております。

但し、協同組合や生協だけでできることはそれほど多いわけではございません。みなさまとともに、だれ一人取り残さない、だれもが平和で安心してくらする社会の実現に向けて、活動を続けていきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

2025年IYC記念滋賀県協同組合協議会活動の概要

団体名	IYC記念滋賀県協同組合協議会			
構成団体	滋賀県農業協同組合中央会、滋賀県漁業協同組合連合会、滋賀県森林組合連合会、滋賀県労働者福祉協議会、近畿労働金庫滋賀地区本部、滋賀県生活協同組合連合会			
2025年の位置づけ	2025年は、2012国際協同組合年に続いて2回目の国際協同組合年です。この国際協同組合年を通して、滋賀県における協同活動を振り返り、さらなる飛躍や推進を促し、協同組合・団体間の連携の強化と持続可能で活力のある地域社会の実現をすすめる機会として活用する。			
実行委員会の役割	2025年を単なるイベントに終わるのではなく、県内協同組合が連携することによる相乗効果を体感できる機会を創り、2030年に向けて役職員が協同組合の役割と展望を実感できる年とともに、協同組合の認知度の向上を図る。			
目的	IYC2025に向けて特別に実行委員会は設置せず、その機能を運営委員会に持たせ、IYC2025企画検討及び企画実践を含めて計画を積極的に推進する役割を担う。			
機能発揮期間	2025年1月～2026年3月 実践・検証・展開			
基本姿勢	「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」の精神で、何でも全部「がちがち」と長続きしない、すでにある他団体の企画に皆で乗ってみる、迷ったらとりあえずやってみる、失敗してもやらないよりはましと心持ちですすめます。(2024年度を継続します。)			
事業テーマ	学ぶ	実践する	発信する	情報交換
活動計画	国際協同組合デー 7月第1土曜 【7月5日】前後 ◎「国際協同組合年記念協同組合を考える集い」 講師未定 「協同組合への期待」(仮称)案予定 7月中旬～8月上旬	◎「協同組合に関わる人々が楽しく学び集まれる場」 ピースコンサート <日時> 2025年11月8日(土) 14:00～16:00 予定 <場所> 草津アマカホール <テーマ> 「いのちや平和の大切さや尊さを考えるよう!!」	◎各団体の広報誌でIYC2025関連の取り組み記事の提供と発信 ○ロゴ・バッジ・プレートなど統一PRグッズ	◎全国IYC実行委員会情報の共有と情報発信 ◎全国IYC実行委員会のコラム活用 ◎年始に向けて、国連のビデオメッセージ、JCA会長・副会長のビデオメッセージの活用 ◎県行政や議会に対しての協同組合促進施策の要請依頼検討
	その他計画	◎現在各団体が実施している活動や取り組みの中で、IYC構成団体として連携ができる企画と連携方法(参加対象・広報・共催・後援・その他)を確認してすすめていきます。 ◎ホームページリンク設定(各団体へのリンク先) ◎2025年国際協同組合年と題して協議会会員組合のHPのリンク設定		
レガシー(業績・伝承)	将来の協同組合間協同・連携に向けた、滋賀県内のIYC協議会に参画する各団体間の人的ネットワークやつながりを残す。			



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

2024年度ユニセフハンドインハンドの取り組み全体報告

I. 2024年ユニセフハンドインハンド店頭・街頭募金を行いました

1. 日時・場所	場所	日程	時間
	コープかたた店	12月3日(火)	10:00
	コープながはま店	12月4日(水)	
	コープもりやま店	12月11日(水)	12:00
	コープぜぜ店	12月17日(火)	
	JR彦根駅 西出口1階段下	12月4日(水)	13:30
	JR草津駅 東出口2階広場前	12月11日(水)	
	JR石山駅 南出口2階広場前	12月17日(火)	15:30
3. 結果	街頭・店頭募金合計	43,734円	約1,350枚



II. 2024年ユニセフハンドインハンド 大学生協の食堂で寄付付商品企画に取り組みました

1. 日時	2024年12月2日～12月21日		
2. 開催	滋賀大学生協 滋賀医科大学大学生協 滋賀県立大学生協		
3. 内容	ポスター掲示、資料置き、寄付付商品企画、募金箱設置		
4. 参加者	大学生協の食堂を利用する学生・教授・職員		
5. 結果	12/16-20 豚塩カルビ丼	募金箱	
	滋賀大学生協	446食 4,460円	493円
	滋賀医科大学大学生協	202食 2,020円	352円
	滋賀県立大学生協	220食 2,200円	71円
	合計	868食 8,680円	916円



III. ハンドインハンドフレンドネーションオンライン募金に取り組みました

1. 日時	2024年12月2日～12月31日	
2. 内容	活動のYouTube動画への視聴誘導とオンラインでの募金	
3. 結果	6人	8,000円 達成率16%



IV. 全体まとめ

1. 募金総額	60,869円 (現金52,869円 オンライン8,000円)
2. 振り返り	

- 1) 街頭・店頭募金の取り組み
 - ①地域性・年代・開催場所により、チラシの受取だけでも様々な反応の違いがあり、相対的に高校生・大学生の反応は今一歩。関心のある学生はごくまれで、チラシの受取も少なかった。呼びかけに対しても、「ユニセフ」の知名度はあるため、逆にチラシ自体を受け取ってもらえない面もあるのとも感じました。
 - ②マンスリー登録されているは意外に多く見受けられたが、1度募金をする、定期的にチラシが送られてきて、経費の無駄という声も少なからずあったので、ユニセフへの報告に加えます。
 - ③生協の店舗では、組合員のチラシの受取も受け止めも街頭よりも高いということで、たすけあいや支え合いの土壌があるように感じました。
- 2) 大学生協での取り組み
 - ①県内大学生協の統一商品企画でユニセフ募金に取り組んで頂いたことは非常に良い取り組みとなりました。商品企画、食材などご協力頂き有難うございました。
 - ②毎年この企画が継続され、年末の大学生協での取り組みとして定着し、学生からの色々なアイデアや関心が高まることを期待します。
 - 3) オンライン募金の取り組み
 - ①オンライン募金は、個人情報を入力しなければならず、街頭のチラシから登録するにはかなりハードルが高い。動画視聴だけでもしてもらえた方が次の行動に活かすことへの機会としてはチラシ内容の構成は良かったと感じています。

3. 次年度に活かすこと

- 1) 県内商業施設での街頭募金はできなかったが、JR駅構内でなく駅前なら、特別な使用許可がなくても実施できることの確認ができたことで、JRや私鉄の駅での街頭署名を中心に、街頭募金は県内各地に広めたいと考えています。
- 2) 県内へ他の団体への取り組みに拡げるために、関係団体への呼びかけも広げていきます。
- 3) 店頭・街頭でできない方のためにオンライン募金を活用できるようにしているが、この取り組みをして

いる団体への信頼度や信用度から、中々オンライン募金までつなげることのハードルは高い。しかし、募金には至らずとも、活動や現状を知り知らせるためのツールとして活用は継続していきたい。

4) 地道な活動として、毎年年末の滋賀県の駅の街頭で行うことが定着すれば、今後訴えに協力してもらえ方も期待できるためにも、今年の取り組みは継続していきたいと考えています。

日本被団協のノーベル平和賞 受賞にあたってのメッセージ

《メッセージ》

滋賀県生活協同組合連合会は、日本被団協のノーベル平和賞の受賞に、心からお祝いを申し上げます。

被爆者の皆様の、筆舌に尽くしがたい被爆体験を継承する活動、日本国内また国連や世界各地での地道な活動にあらためて心からの敬意を表します。

滋賀県生協連は、平和の願い「誰もがいのちや基本的人権を脅かされず、安心してくらせる社会へ」を実現するため、平和やいのちの尊さをたいせつにする活動に取り組んできました。中でも日本被団協とは、2017年結成の「ヒバクシャ国際署名を広げる滋賀県民の会」や2021年結成の「日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める県民の会」へ参画を通して、被爆者の願いの実現のための署名活動を中心に、核兵器廃絶に向けた声を市民に届けるなど様々な活動を共にすすめてまいりました。

この度の日本被団協のノーベル平和賞受賞は私たちにとても、嬉しい出来事であり、これを機に核兵器廃絶運動の機運が高まることへの期待と、これからも共に核兵器廃絶に向けた平和の取り組みをすすめ参りたいと思います。

滋賀県生活協同組合連合会(略称：滋賀県生協連、会長：白石一夫)は、2024年10月18日白石会長名で日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)のノーベル平和賞受賞にあたり、以下の通りメッセージを発表いたしましたのでお知らせします。

核兵器禁止条約が
発効されました！

2017年に国連総会で条約が決議され、発効まで4年の歳月を経ましたが、2021年1月、歴史上初めて核兵器そのものを禁止する画期的な国際的取り決めとなりました。しかし、唯一の被爆国である日本はこの条約に批准していません。

核兵器廃絶を目指して
署名にご協力をお願いします。

Web 署名はこちらの
二次元コードから

滋賀県生活協同組合連合会

近畿地区生協府県連協議会 滋賀開催

10月18日キラリエ草津にて、近畿地区内の府県連(兵庫・大阪・和歌山・京都・奈良・滋賀・福井)と近畿ろうきん地域推進室、日本生協連関西地連、消費者支援機構関西14名が集まり、各団体の取り組みやトピックスを報告しながらの情報共有と懇談を深めています。年3回の輪番制で開催し、厚生労働省との

懇談会のテーマや内容、近畿農政局との意見交換会について内容を協議し、毎年の開催につなげています。今回は滋賀県の開催当番であり、日本政府に核兵器禁止条約への署名・批准を求める県民の会の講演会やユニセフハンドインハンドの取り組みを報告しました。



県行政との懇談会

11月11日コラボしが21にて、懇談会を開催しました。県民生活課から3名、県連役員12名で7月に提出した政策制度要望に対しての県の考え方の報告を受けて、の感想や再度の意見を提出しました。また、2024年度の消費者行

政に関係する取り組みや進捗、滋賀県生協連からは、協同組合原則の見直し、2025年国際協同組合年に向けた取組などをお互いに報告し、県行政と生協とがお互いに協力し、さらに県民のくらしに役立てることを協議しました。



石川能登輪島炊き出しボランティアとともやスーパー復活応援企画

①12月21日大阪府連さんからの呼びかけに応じて炊き出し支援ボランティアに参加

6月の支援に続いて、9月豪雨災害で被災した住民の方に年内最後の炊き出し支援を行うところに参加させて頂きました。会員生協に呼びかけ3名で1泊3日の日程で「もとやスーパー」前で住民の方とボランティアの方を対象として、昼・夜2回の炊き出しに際しての支援でした。震災に加え豪雨災害にあわけて、少しでも元気になってほしくもう一度参加したいとの想いを持って参加した方が、豪雨により以前来た時よりもひどくなっている現状に、唖然とした中で、被災者の方にはもっと厳しい中

でくらししていかなければならないことの現実をつきつけられ、息の長い支援の必要性を感じました。



②能登輪島市町野地区「もとやスーパー」復活応援企画への参加

9月の豪雨により被災した「もとやスーパー」は、全国のボランティアの支援を受け、11月30日に復活オープンされ、同時に魚屋さんをオープンされました。このスーパーを持続可能なものとしていく

ために、「魚を贈って」復興を目指してもらおう企画に会員生協に呼びかけ約10万円の寄付を頂き、海産物を送っています。12月~1月海産物を送付し復興に役立てて頂いています。



被爆ピアノコンサートの実施

11月30日ひこね文化プラザエコーホールにおいて、平和やいのちの大切さを考える被爆ピアノによるコンサートを開催しました。第一部では、ピアノ調律師の矢川光則さんのピアノの歴史の語りの後、ピアニスト佐藤さんによる演奏、歌手七瀬さん Minakoさんの歌、2部では、滋賀県生協連「戦争の記憶をつなぐ元実行委員会」竹山さんから被爆体験の語り手さんの冊子の朗読、一部に引き続いてピアノソロ演奏と歌と一緒にみんなで合唱し、フィナーレでは「ふるさと」を歌い終了しました。80年以上前に製造され、被爆したピアノが奏でる音色を聞き、当時の状況を想像しながら、このピアノでしか出せない音楽や伝えられるメッセージを各自心に刻み、「平和やいのちについて考える機会となり、その大切さが、ひしひしと伝わってきました」や「ピアノの音色には何か語り掛けるように、歌手や朗



読のメッセージをより浮かびださせる」との多くの感動の感想を頂きました。今後も平和を様々な視点からとらえ、より多くの方や幅広い層からの参加が得られる取り組みを検討していきます。

いつまでも健康でありたい、他人に頼ることなくできるだけ自立した暮らしを
したいという願いは人々の共通する想いです。この機会に考えてみませんか。



と き 2025年 **3月8日(土)**
14:00～16:00 (受付13:30～)

と ころ **キラリエ草津 5階501会議室**
(草津市立市民総合交流センター)

募 集 **50名 申込要** (定員を超える場合抽選)

参加費 **無料** ※駐車場は4時間まで無料

1部

健康チェック

- ①血圧測定 ②身体機能カラダ年齢測定
- ③骨密度測定 ④足趾力測定 ⑤ベジタブルチェック
- ⑥血管年齢チェック ⑦脳健康チェック

健康チェックシートの見方をレクチャー

2部

健康寿命を考えるお話

講師 医療関係者より

※希望者に16時～17時まで医療相談、介護相談

お申込み

滋賀県生活協同組合連合会 事務局

滋賀県野州市富波甲972番地(平日:月～金 10時～16時)

TEL:077-518-0072

「知って学んで健康寿命を延ばそう」申込みまで

E-mail:siga-seikyoren@cooperative.jp

又は

FAX:077-518-0078

二次元コードでお申込み



【主催】滋賀県生活協同組合連合会

【協力】しが健康医療生活協同組合
生活協同組合コープしが
(株)タクス

申込締切:3月5日(水)

【参加申込欄】

お名前	電話番号	住 所	相談希望
			無・有
			無・有

※ここに記載いただく個人情報は、当団体の活動以外には使用しません。

理事会
報告

第4回・第5回理事会での
主な決定・確認事項

- ◆第4回定例理事会決定・確認事項(11/22)
 - ①能登豪雨災害への組織募金
 - ②第51回通常総会までの主なスケジュールと総会役割分担について
 - ③「2024年度 知って、学んで、健康寿命をのばそう」企画
- ◆第5回定例理事会
 - ①旅費規程の改定について
 - ②理事会運営の継続実施について
 - ③2024年度活動のまとめ(第1次案)
 - ④2025年度活動計画案(第1次案)
- ◆第5回～8回常務理事会検討事項(11/22,12/2,12/20,1/9)
 - ①滋賀憲法集会2024
 - ②第45回理事会の機関運営会議と日程(案)
 - ③石川輪島もとやスーパー復活応援企画、炊き出しボランティアの募集
 - ④上半期監事監査の意見書への回答

今後の主な予定

2
2024
Feb.

- 6日 JCA全国協同組合連携組織の全国交流会
- 8日 第47回全国きょうされん滋賀大会実行委員会
- 19日 NYC2025キックオフイベント
- 20日 消費者ネットしが 理事会
- 21日 第9回常務理事会
- 25日 関西送配電梯との懇談会

3
2024
Mar.

- 1日 ビキニ集会
- 3日 近畿農政局と近畿府県連との意見交換会
- 5日 MCA無線訓練/生活応援セミナー
- 8日 「2024年度 知って、学んで、健康寿命をのばそう」学習会
- 14日 近畿地区生協府県連協議会(なら)
- 15日 消費者問題セミナーII講演会

編集
後記

広報誌「しがの生協」は、1998年6月に創刊し27年で今回200号を発行することとなりました。引き続き、暮らしに関する課題や会員生協の学びとなるような学びの情報を提供していきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。T.M

